

令和7年2月8日(土)「2050ゼロカーボン・ヤチヨ・シンポジウム」
 パネルディスカッション【まとめ】

| テーマ「八千代市におけるゼロカーボンシティ達成のためにできること」 | |
|--|--|
| コーディネーター松原様 質問1「八千代市で脱炭素を進めるうえでの『弱み』と『強み』について、どのように現状認識しているか」 | |
| TOAシブル・舟瀬様 | 弊社で製造している再生エネルギーを工業団地で既に使っていただいている事業者もあるが、幅広くは知られていない。今回のようなシンポジウムやカンファレンス等の民間企業が参画できる枠組みがあれば周知につながるし、経済活動につながると思う。 |
| やちよ未来エネルギー・小林様 | ゼロカーボンシティ宣言をしていることが市民に浸透していない点が課題だと感じる。今回のようなシンポジウムを定期的開催し、先進的に取り組んでいる企業や市民を巻き込んで進めていくムーブメントが必要だと思う。 |
| 松戸市・松戸様 | 八千代市は人口が多いという松戸市と似た特性があるので、市民運動のような取組みが一つ決まったら成果が上がると思う。逆に人口の多さが弱みにもなり、多種多様なニーズがあるので、政策としてまとめていくのが難しいと感じる。 |
| 環境審議会・馬上様 | 脱炭素問題は、決められた期限の中で成果を上げなければならない点、地下水・振動・大気汚染等の従来の環境問題とは異なっており、2050年までに何とかしなければいけないことを政策面でも意識しきれていないと感じる。一方で、都市計画として市北部に自然を残してきており、それを活かして再生可能エネルギーを産み出すうえで強みになる。 |
| 村上東中・野口様 | 各小中学校でSDGsの取組みが進んできており、年間行ってきたことを教育委員会のHPに掲載して発信してきているので、市の教育の点では大きな強みと思う。ただ、各学校の取組みが点と点になっており、北部と南部で取組み方が違ったりしているので、交流をしたり、ゼロカーボンという視点で整理し直すという動きが必要。 |
| 八千代市・加藤部長 | 市の都市計画として、北部の農村地帯、中部の工業地帯、南部の住宅地帯が分かれて開発されて来っており、工業地帯で言えば様々な業種の企業がそれぞれ技術を有し、未来エネルギーのような取組みも含め、色々な方々が市を盛り上げてくれているのが強み。課題としては、それを融合する、市民・事業者を巻き込んでプラットフォームを作るような姿勢が市として遅れていると感じている。 |
| コーディネーター松原様 質問2「八千代市で取り組める脱炭素につながる施策・取組みとして何が挙げられるか」 | |
| TOAシブル・舟瀬様 | 一般廃棄物の焼却からの温室効果ガスを削減するために、市民だけでなく事業者も含めて廃棄物を分別して少しでも焼却に回さなくてもいい仕組みを構築すること。1社だけでは難しいので、連携した動きが必要。オフセットだけではなく、本質的に変えていくためには、民間企業だけでは限界があるので、市に動いてもらおうと大きな後押しとなるので、今回のようなディスカッションできる場の継続も必要。 |
| やちよ未来エネルギー・小林様 | 公共施設を使った太陽光発電のPPA事業や、生ゴミや酪農の糞尿等のバイオマス発電事業。また、成田市や市川市のように、再エネ電力を自治体新電力として購入することで、経済も地域で循環するようになるのではと考えている。 |
| 松戸市・松戸様 | 行政だけで決めていくのではなく、市民や事業者が自ら考えていただける市民会議のような会議体があるといいと思う。そういったものを経て、市民と一緒にできるイベント(衣服やゴミのリユース等の循環型イベント)に取り組むなどして環境意識を高め、輪を広げていくような活動ができればいいと思う。 |
| 環境審議会・馬上様 | 工業団地が多くあるので、地域で作った電気や熱等のエネルギーを企業で最大限消費してもらおうこと。市内の工業団地の周辺には農地や山林が残っており、距離的に近いという利点があるので、そこから出てくる自然エネルギーを企業で使ってもらおう。また、学校ではなく現役世代等への教育として、職場で脱炭素の教育を受けることで、市民としての意識向上にも繋がっていくので、職場での教育に力を入れていってほしいと思う。 |
| 村上東中・野口様 | 学校生活では節電やリサイクルや給食を残さないようにといった指導は昔からあるが、なぜそうすることで脱炭素につながるかということ、教員が一方的に指導するのではなく、子どもが自ら疑問に思っ考えられるようにサポートすべきと思う。普段の生活だけでは難しいので、学校間の情報交換や企業との交流といった場で、子どもたちに気づきを与えていく必要があると思う。 |
| 八千代市・加藤部長 | 皆様からのご提案を参考に進めていくことが第一だと感じる。ゼロカーボン新聞等により啓発はしているが、なかなか浸透していないので、情報発信については工夫していきたい。松戸市のように、市民を巻き込んでの取組みを進めていきたい。近い将来には、市の公共施設が3割くらい再エネ100%の電気に切り替わる予定であり、市役所の新庁舎にはZEB Readyが採用される予定。そういった小さな取組みでも進めながら、実質的に二酸化炭素を減らせる政策を進めていければと考えている。 |

| | |
|--|---|
| コーディネーター松原様 質問3 「八千代市だと太陽光発電のポテンシャルが高いが、太陽光発電以外の施策はないか」 （※会場から） | |
| 環境審議会・馬上様 | 農地での施策でいうと、水力は難しいので、バイオマス発電になると思う。森林や梨等の果樹の剪定枝による木質系の資源を検討してみても良いと思う。バイオマス系は熱利用するのが良い。また、畜産・酪農による糞尿のガス化発電して、残りはたい肥とする。以前試算したところでは、200世帯分くらいは発電できると思う。 |
| コーディネーター松原様 質問3-2 「バイオマス関連では、廃棄物のリサイクル等いわゆるサーキュラーエコノミーも脱炭素につながるが、どういった取組みが効果的と思うか」 | |
| TOAシブル・舟瀬様 | 事業者が温室効果ガスの排出量を算定しているかどうかの差がある。上場企業は行っているが、工業団地の特に製造業等の事業者の意識についてヒアリングが必要だと思う。自分たちがどれだけ排出しているかを把握し、他事業者とどのくらい違うのかを意識できるフェーズになっていない。市内事業者の中での現状の共有ができると機運が高まり、その先に何をすべきか考えていくようになると思うが、まずはなぜやらなければいけないか理解してもらうことが重要だと思う。 |
| 八千代市・加藤部長 | 令和10年までにはプラスチックの分別回収が始まる予定。国・県からの廃棄物行政の広域化の流れもある中、老朽化している清掃センターについては、一度手入れをした後に、2050年あたりには総合的に変えていくという時期になる。その時には広域処理やCO2の削減も含めて抜本的な対策を検討する必要がある。工業団地での取組みに関しては、工場等協議会があるのでそちらも通しながら、各工場の協力も得ながら進めていきたい。 |
| コーディネーター松原様 質問4 「脱炭素実現に向けて、今後どのような『場づくり』が必要と思うか」 | |
| 村上東中・野口様 | 教員としては、学校の中だけでなく、こういった場にどんどん出ていくことが必要と感じる。子どもの視点で言うと、企業や地域、学校間での交流と言った機会を、オンラインでもいいのでどんどん増やしていくことが重要だと感じる。 |
| 環境審議会・馬上様 | 都市化された南部と農村部の北部との意識の差が強く出ると思われる。人口構成の面や、気候変動で影響を受けやすい農業従事者、再エネや省エネを取り入れられない世帯等が抱える問題を探っていく必要がある。市全体として、誰も取り残さない施策、声を拾い上げられていないところをフォローできる場づくりが必要と感じる。 |
| 松戸市・松戸様 | 松戸市環境未来会議の参加者の中には市内のNPO団体もいるが、自分たちで環境に関する市民会議を開いたりしているが、主体が市から市民側にシフトしてきていると感じる。ずっと市が主体でやり続けるのは難しいので、市民団体と話し合いながら決めていくと良いと思う。 |
| やちよ未来エネルギー・小林様 | やちよ未来エネルギーで行っているコドモミライプロジェクト自体が場づくりになっていると感じるが、それだけではなく、強い広がりを作るためにも、企業や市にも協力してもらい、市民と一緒に実行できる場を作れたらいいと感じる。 |
| TOAシブル・舟瀬様 | 事業者の立場で言うと、働き方改革もあり、土日だと参加がなかなか難しい、平日に一般のセミナーを開催しようとしてもどうしてもコストがかかってしまう。弊社の話をすると、サステナビリティ推進室に4名配置されているので、会社としての本気度を感じるが、一般的な企業だと脱炭素に時間と人を充てるのはなかなか難しい。今回のような場をアーカイブ配信するなど、いつでも見れるようなコンテンツがあると良いと思う。 |
| 八千代市・加藤部長 | やちよ未来エネルギーの活動のような取組みや発信を市としても進めていければと感じている。事業者に対しては、企業単独ではなかなか進めていけないような現状もあると思うので、工場等協議会等を通じて脱炭素に関する勉強会のようなものを市を中心に行っていければと考えている。 |

コデイナー松原様

質問5 「脱炭素に関する一押しの施策は」

| | |
|----------------|--|
| TOAシブル・舟瀬様 | 今回のような、自社の活動を知っていただける機会は大変ありがたい。事業者向けにはなるが、弊社が作っているような再生エネルギーをもっと使ってもらえると、温室効果ガスの削減に寄与できると思う。 |
| やちよ未来エネルギー・小林様 | 市内で発電した再エネ電力による自治体新電力を実現できると良いと思う。 |
| 松戸市・松戸様 | 太陽光パネル等の再エネの普及も重要だが、再エネ100%等のクリーンな電力を市民が購入するような施策があればCO2を減らして行けると思う。 |
| 環境審議会・馬上様 | 八千代市の地理的・産業的な特徴を活かす「脱炭素農業」の実現。世界全体の温室効果ガス排出量の25%は農業からと言われる中で、豊かな自然を将来に残していく手段としても、都市計画の結果まとまって残ってる農地を活用し、作ったエネルギーを産業場で使うといった施策を市として取り入れていければいいと思う。 |
| 村上東中・野口様 | 2050年に向けて、今の八千代市の北部の自然や南部の色々な取組みについて、私自身も知らないことがたくさんあるので、子どもたちと一緒に触れて学んでいきたい。 |
| 八千代市・加藤部長 | 2050年の段階で新耐震基準の住宅が70%が残ることになるとのこと。自分たちが今できることとして、太陽光等の再エネ導入もそうだが、住宅の断熱化も非常に効果的。電気自動車の導入も含めて、省エネ設備等への補助を継続していきたい。 |

コデイナー松原様

まとめ：八千代市でこういったシンポジウムのような議論は初めてであり、地域脱炭素ロードマップや計画もできている。これからは実行していくことが必要。どのように進めていくかを考えていくにあたって、今回がきっかけとなったと思う。